

Ku帯非静止衛星通信システムの技術的条件の
検討に関する中間報告
— 検討経過 —

令和元年10月17日
衛星通信システム委員会
作業班

Ku帯非静止衛星通信システムの技術的条件

背景と概要

衛星搭載機器の小型軽量化や衛星打上げ費用の低廉化により、小型の人工衛星の実用化が比較的容易になった。このため、通信の遅延時間が短い(最小20ミリ秒程度)中・低軌道に打ち上げた多数の小型衛星を連携させて一体的に運用する「衛星コンステレーション」を構築し、極域を含めた世界全域を対象として、緊急時・平時を問わず、ビジネス用途の高信頼・高速大容量通信など多様なサービスを提供することが可能となった。

これを受けて、Ku帯、Ka帯及びV帯の利用を想定した、中軌道(MEO)又は低軌道(LEO)に投入される多数の小型衛星でコンステレーションを構築する計画が複数検討されている。その内、Ku帯を利用した非静止衛星システムが令和3年にサービス開始予定であるため、我が国でもサービスを導入可能とするための検討を行っている。

検討内容

「非静止衛星を利用する移動衛星通信システムの技術的条件」(平成7年9月25日付け電気通信技術審議会諮問第82号)のうち、「Ku帯非静止衛星通信システムの技術的条件」

検討経過

平成29年5月19日 情報通信審議会情報通信技術分科会に検討開始報告

平成29年6月27日 第33回衛星通信システム委員会において審議開始

平成29年6月29日 第10回作業班において審議開始

平成30年1月18日 第11回作業班

- ・システム概要、国際標準化等状況

令和元年6月11日 第15回作業班

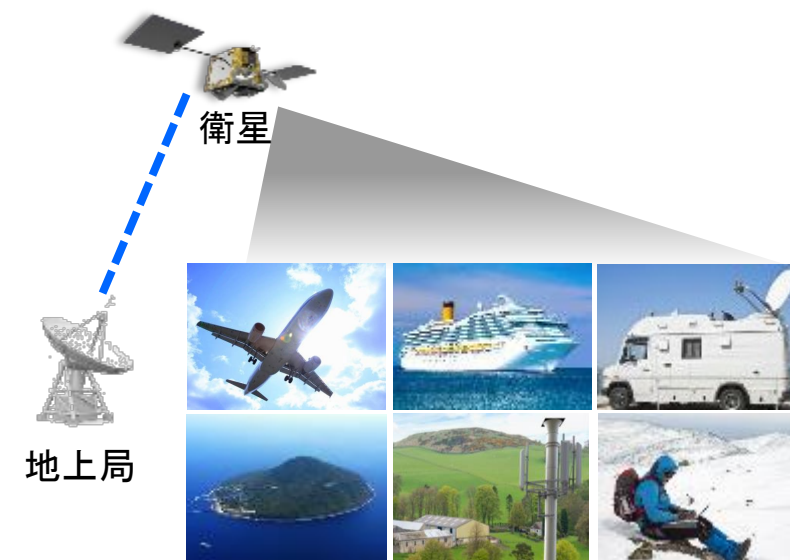
- ・システム概要、国際標準化等状況の更新情報
- ・周波数共用条件の検討

令和元年8月22日 第16回作業班

- ・周波数共用条件の検討

令和元年10月1日 第17回作業班

- ・周波数共用条件の検討



Ku帯非静止衛星通信システム